

## 2007年後期岡山観測所プログラム小委員会議事録（案）

日時：2007年5月24日（木曜日）13:00～17:15

場所：東京八重洲ホール

出席：比田井昌英（委員長）、中村泰久、伊藤洋一、青木和光、山下卓也、  
西浦慎吾、木下大輔、柳澤顕史（幹事・書記）

ex.officio：泉浦秀行（HIDES装置担当）

### 1 はじめに

委員自己紹介

### 2 前回議事録確認

議事録案が回覧され、承認された。

### 3 岡山観測所ステータス報告

- ・ 吉田所長が欠席されたので、装置現状のみを説明。今回のステータス報告は、次回のプログラム小委員会にて行う。
- ・ HIDES: 安定運用を継続できている。Mosaic化は来年度となる見通し。
- ・ ISLE : 06年後期から共同利用観測に公開。すでに 16,000 フレームを取得。dithering, focus あわせに対応。現在、分光モードを立ち上げる準備をしている。なお、伊藤氏（三重大学教育学部）によるISLE表面測光での検出限界評価が資料として提出された。Ks-band における表面輝度の検出限界(S/N=1, 1画素あたり)は、5分積分で  $20.0 \text{ mag/arcsec}^2$ , 1時間積分で  $21.3 \text{ mag/arcsec}^2$ である。
- ・ KOOLS: KOOLS PI 岩田氏が作成した、「2007年後期 KOOLS 試験観測計画」の資料を柳澤が紹介。CCD Cryostat を新規作成。pulse tube 冷凍機を採用。冷却は問題ないが、ノイズが大きくなったので現在対応中。来期より PI-type の共同利用観測装置として公開したいので、その評価のために今期にまとまった試験観測時間を要求したい。

### 4 188cm 望遠鏡課題審査

#### 4.1 課題申請状況の確認

- ・ 申請項目別：プロジェクト（継続）1件、学位支援プログラム\* 1件、一般14件
  - ・ 学位論文支援プログラムは博士論文用
- ・ 分野別：Stars 10、Star Formation 2、Extragalactic 1、Others 1
- ・ 装置別：HIDES 12、HBS 2、ISLE 2

- ・ 申請内訳：プロジェクト 35、学位論文支援 7、一般 156、合計 198 夜

#### 4.2 共同利用夜数の決定

観測所より提出された観測所時間要求内訳をもとに議論した結果、111 日を共同利用に提供することとなった。内訳は以下のとおり。

- ・ 2007 年後期：161 日（7 月 20 日～12 月 27 日）
- ・ 観測所時間：50 日
  - 整備期間：14 日（秋季整備期間：望遠鏡、ドームへの注油、蒸着のバックアップ）
  - 観測所行事：特別観望会 1 夜
  - エンジニアリングタイム：KOOLS 14、ISLE 6、HIDES 0、HBS<sup>※1</sup>
    - ◇ HBS の 1 夜は較正のための時間。採択された場合には、必ず観測所時間から提供することになっている。
  - 日韓共同惑星探査計画：9 夜
  - 観測所時間（サイエンス）：5 夜
- ・ 共同利用提供夜数：111 日（161 日 - 50 日）

#### 4.3 プロジェクト観測（継続）の審査

- ・ 今年の春に PI は異動したが、研究に専念できるポジションであり、これまでどおり共同研究者の観測支援も受けられることから、昨年と同程度の観測実施体制を維持できると判断した。しかし、観測者の負担はやや大きく、それを軽減するための観測の自動化は今後の課題である。また観測後、数日以内にデータ解析を完了できるため、データ解析には問題がないと判断した。
- ・ 統計的研究の観点から新たな 50 個のターゲットを認める。
- ・ 議論の結果、要求どおり 35 夜みとめることとなった。

#### 4.4 学位論文支援枠の審査

レフェリーの評価が総じて低いことから、学位論文支援枠での採用は見送り、一般枠に組み入れて審査することとなった。

#### 4.5 一般の審査

議論を経て、以下の課題を採択し、夜数を配分した。

代表者	課題名	夜数
佐藤 文衛	精密視線速度測定による G 型巨星の惑星サーベイ II	35
森谷友由希	Be/X 線連星 A0535+262 の近星点付近における輝線変動の観測	7
秋田谷 洋	T Tau 型星方向の前方星間偏光の決定	6
豊田 英里	ドップラー法による連星系の系外惑星探査	17
岡崎 彰	アルゴル型食連星の偏光分光観測	10
菅原 泰晴	硬 X 線を放射する早期型星の可視高分散分光観測	10
川野元 聡	$\epsilon$ Cas における金属吸収線の線輪郭変動	3
八木 雅文	Infrared imaging of nearby E+A galaxies II	7
今田 明	矮新星の近赤外測光観測 (2)	10
深川 美里	あかりによるベガ型星探査サンプルの金属量測定	6

## 5. その他

5.1 岡山ユーザーズミーティングは 9/10-12 の予定。

5.2 今回は、系外銀河 (1 件) とその他 (1 件) を同一レフェリー群に、 恒星 (10 件) と星形成 (2 件) を同一レフェリー群に審査してもらったが、恒星の専門家のなかには星形成研究の背景の認識が十分ではない、と思われるコメントが見られたため、恒星と星形成を分けて審査したほうが良い、との意見が出た。これは公正な審査という観点からは望ましいが、分野毎に審査するとレフェリーによる相対評価が意味をなさない欠点がある。また、逆に、分野を区別せずに同一レフェリー群に全てのプロポーザルを審査してもらう方法も提案された

5.3 レフェリーより、名前を伏せたレフェリングと、スコアの評価項目について検討をしてほしい、と要望が寄せられた。回答のための議論は、会場借りあげ時間の都合上、後日議論することとなった。

5.4 研究代表者の名前を伏せたレフェリングを開始して今回で 3 回目の審査を経験した。今回より新しくプログラム小委員に加わったメンバーの理解のために、伊藤委員より資料にもとづく説明があった。

5.5 次回は岡山で 11 月にプログラム小委員会を開催する。年に 1 回岡山で開催するのは、プログラム小委員に岡山観測所を視察してもらう機会を設けるため。